



JRA認定競走／JA全農いわて協賛
第28回 ジュニアグランプリ (M1)

盛岡競馬場／2歳・地方競馬全国交流・芝1600m
8月23日(日) 第8競走 17:15発走

OROパーク開場から3年後の1999年、待望の2歳(旧年齢3歳)芝の交流重賞として新設。当初は東北3県(※岩手・上山・新潟)交流として『東北ジュニアグランプリ』のレース名でした。2003年に地方競馬全国交流へと門戸が開かれレース名も今と同じく『ジュニアグランプリ』に。以来、貴重な地方競馬の2歳馬による芝重賞として存在感を示してきただけでなく、その後の芝戦線、3歳の芝重賞へも繋がる戦いとして重要な位置を占めています。昨年このレースを制したセイクリスティーナは芝もダートも横断しての活躍中。それに続く若駒が登場するか?にも注目のレースです。

■セイカールトン(牡2 岩手・佐々木由則厩舎)



デビュー戦は2着だった本馬だが2戦目で初勝利、3戦目の重賞・若鮎賞も制して3戦2勝。一躍今年の岩手2歳戦線のトップに躍り出た。レースセンスの良さは当初から高く評価されていた馬だけにこの一連の戦績もその素質がしっかり表れたものだと評価できる。そして、昨年のこのレースを制したセイクリスティーナと同厩・同馬主というだけでなく「初戦2着、2戦目を勝って3戦目若鮎賞制覇」の流れも同じ。ジュニアGP勝利、そしてその先も同厩の先輩を追いかけていく。

中間は変わりなく順調。遠征馬との力関係はやってみないと分かりませんがこちらには地元の芝実績がありますからね。あとは鞍上に任せます。(佐々木由則調教師)

■コパノエビス(牡2 岩手・板垣吉則厩舎)



北海道ではつい先日までサマーセール、未来の活躍馬を探す“戦い”が繰り広げられていたが、本馬も昨年のサマーセールで購買されて岩手でデビューした馬だ。父オメガパフュームは本年度の2歳馬がデビューとなる新種牡馬。2018年から2021年まで東京大賞典4連覇をはじめダートグレード8勝の実績を挙げた父だけに産駒に芝のイメージがまだ出てこないが自身のきょうだいにしても父のきょうだいにしても長めの距離向きなのは確か。初距離での変化を期待してみたい。

距離は問題無いと思うのですが今回が初の芝。そこがどう影響するだろうか？と思っています。
(板垣吉則調教師)

■コパノブリックス(牡2 岩手・板垣吉則厩舎)



同厩の同僚とおなじく本馬もサマーセールの出身馬。今季の岩手での“2歳新馬勝ち第1号”でもある。その後は掲示板圏内に留まるが、若鮎賞での4角では離れた後方から5着まで追いつけた末脚には惹かれるものがあった。本馬の半兄エコロアルバがサウジアラビアRC優勝、朝日杯フューチュリティSでも4着に食い込んでいることを思えば芝適性は十分にあると見ていいはず。デビュー戦で見せた立ち回りの良さと秘めた芝適性。そこが噛み合ってくればもっと好成績を挙げていいだろう。

芝の適性は大丈夫そうなのですが、前走のように最後のひと頑張りがね。そこが今の課題だと思います (板垣吉則調教師)

■アルヴェルナ(牝2 岩手・瀬戸幸一厩舎)



5月4日の新馬戦では1番人気に推されたものの4着。その後も一進一退しながら3着が最高という成績ではあるが、コースを変え距離を変え、芝にも挑みながら、それぞれに対応してきているのは高く評価できそう。芝での2戦は枠順が味方した面もあったにせよ先行力を発揮したし、若鮎賞では6馬身あったベストプラージュとの差を前走は4馬身強と縮めてきている点も注目しておきたいところ。成績の比較ではまだ目が向きづらいが芝適性の比較であれば上位に置いていい存在。

状態は変わりなく順調ですね。展開次第でチャンスはあるでしょうから期待しています。(瀬戸幸一調教師)

■ユウユウジュレップ(牝2 岩手・佐藤祐司厩舎)



新馬戦はコパノブリックスの4着。その後は3着までの成績に留まる本馬だが、前走のジョーバローズ、二走前のクリームゾンダリア、三走前のセイカールトンと近走はかなりの強豪とぶつかっている事、そんな中でも自身の戦いぶりに進境を見せている点は押さえておきたい部分だ。近親には芝で勝ち星を挙げている馬も少なくなく大きく見て芝・ダ兼用、ただし距離は短距離側が多そう…な印象を受ける血統。父の血で距離をカバーできるか？初芝はどうか？ここで何かきっかけが掴めれば面白い。

ここ二戦などは良い競馬をしてくれていますが、まだ未勝利ですし重賞ではまだ少し足りないのかなと感じるのが正直な所。これを糧に成長してほしいですね。（佐藤祐司調教師）

■ブライティアセレブ(牝2 岩手・佐々木由則厩舎)



本馬のデビューは6月の盛岡芝1000mでの新馬戦。現時点では今年唯一の「芝の新馬戦」を経験しているのは貴重といえる。母ブライティアパルスは2010年のマーメイドS優勝、父アルアインは2017年の皐月賞・2019年の大阪杯の芝G1を制している芝血統だけに芝での走りへの期待値は計算できるはず。きょうだいには岩手で複数の勝ち星を挙げている馬が多く“岩手適性”も決して低くないはずだ。盛岡の芝で二度戦った、その経験値を活かしきりたい。

まだ少し非力なところが残っている。その点で芝は良いと思いますがまだ成長途上ですね。良い経験になればと思っています。（佐々木由則調教師）

■グレーヌドスタール(牡2 大井・穂刈隆志厩舎)



提供:TCK（東京シティ競馬）

5月の大井での新馬戦を完勝して期待が大きく高まった。そこからは着順の数字こそ後退したとはいえ「走っていてカーッとなるところを見せたりするのですが、一方でそれでも最後まで食い下がろうともする。気持ち面がうまく噛み合ってくれば力はある馬だと思っています」と穂刈師の高い評価には変わりがない。母ハーミアは牝馬にして戸塚記念を制した強豪、母自身は芝で走る機会がなかったが本馬のきょうだいには芝で好走している馬もいる。いわゆる“初物尽くし”だが秘めた素質の高さに期待をかけてみたい。

芝も距離もこなしてくれると思いますし左回りにも前走で対応してくれました。遠征競馬はやってみないと…ですが、条件的に面白いと思つての参戦です。（穂刈隆志調教師）

■ベストプラージュ(牝2 岩手・飯田弘道厩舎)



デビューからの5戦は最高が2着、どちらかといえばタイム差が大きい後方…という成績だったが芝に挑んでまさに一変。若駒賞はセイカールトンには離されたものの自身も後続にはっきりとした差を付けての2着を確保、そして前走の芝マイルのJRA認定競走で待望の初勝利と芝巧者ぶりを発揮しつつある。「反応の良さではセイカールトンの方が目立ったから」と飯田師は慎重だが、やや重や重馬場で好走できるのは間違いなく馬としての芝適性が高い。ライバルとの勝負付けに結論を出すのは早い。

手応えある調教で状態は変わりないようです。遠征馬も含めライバルは強力だと思いますが、この馬向きの流れになってくれれば。(飯田弘道調教師)

■ミッションフェロー(牡2 北海道・村上正和厩舎)



今回のメンバー中では4番目に早い5月5日のデビュー。当初は掲示板に手が届かずにいたが距離を伸ばして一変、3着、2着、1着と勝ち星まで手に入れた。前走は7着と後退したが着順の数字だけで判断してはいけないのが門別の2歳戦。前走のメンバーはこの木曜に行われた2歳重賞で有力と見なされた馬たちだし、それ以前の敗れたレースも同様だ。“出遅れて厳しい展開でなお重賞級の馬たちと差のない7着”と表現したならば、本馬の力量が侮れない事も伝わるのではないだろうか。

血統的に芝が合うと思って挑戦します。しぶとく走れる馬だから芝さえ合うなら小回りのマイルという条件も良いのではないのでしょうか。(村上正和調教師)

■カンバイ(牡2 北海道・田中淳司厩舎)



提供:ホッカイドウ競馬

デビューは6月25日、ここまで2戦のみのキャリアだが、言わずと知れたハイレベルの門別2歳新馬戦を勝ちぬいた、それも直線は相手にいったん前に出られたところから差し返しての勝ちっぷりからはそんなキャリアの浅さを補って余りある底力を感じる。2戦目の前走は9着敗戦となってしまったがあくまでも上級認定戦、重賞でも勝ち負けという馬すら揃っていたのでは致し方ないというべきだ。ここではまた芝や距離など乗り越えるべきハードルは多いが、本馬の素質ならそれでも巻き返してきていいだろう。

大きなトビの走りで素質の高さを感じさせる馬です。前走はちょっと窮屈な競馬になってしまいましたが今回は外枠ですし、伸び伸び戦える事を期待しています。(田中淳司調教師)」

■レディーショコラ(牝2 岩手・齋藤雄一厩舎)



ここまで2戦のキャリアはカンベイと並んでメンバー中最小、6月29日のデビューはブライティアセレブと並んでメンバー中で一番遅いという本馬。経験を積んでいるライバル達に対してはそこが割引点と言わざるを得ないが、一方で芝の新馬戦2着の実績、それも勝ち馬の末脚にこそ屈したが最後まで競り合いながらの2着確保の内容は芝適性の点でアドバンテージと言えそう。相手関係や距離もこれから越えていくべき課題。まずは一歩前進を狙う。

芝は合うタイプだと感じますが距離は少し長いのかも。今回はこれまでとは違う形の競馬で距離に対応してみたいと考えています。(齋藤雄一調教師)

■タカマキイト(牡2 岩手・菅原右吉厩舎)



デビュー戦で2着、その後3着が続きはしたが能力は高そうと思って見ていた前走が8着敗戦。これで評価に悩む感じになってしまったが、初めての良馬場、多頭数の内枠と若駒にとっては戸惑う状況でもあったはず。ここで評価を定めるのは早いだろう。そう思っているのは陣営も同様で「もっと走る馬だと思っているからね。今回は調教も強めにして変化を期待したい」と菅原右師。きょうだいにはバリバリの芝馬こそいないものの盛岡の芝で好走した馬はいる。軽視しきってしまうのは禁物。

前走は思いのほか走らなかったですが力はあるし芝も合うと思う。先週勝った馬みたいに前の方に付けて行ければ面白いでしょう。(菅原右吉調教師)